



学校だより

# 山辺里小学校

学校HP <http://saber-e.murakami.ed.jp>

令和4年1月18日 第9号

## 予 祝

校 長 小川 誠

「いつもきれいにお使いいただき、ありがとうございます」。

これは、飲食店や公衆トイレなどで目にする張り紙です。初めて使う人でも、先にお礼を言われると、「背くのは悪い」と気を配る心理を期待しているのです。

この「将来そうあって欲しい姿を、事前に感謝する」のは、日本古来の習わしです。昔の日本人は、先に未来を祝い、感謝していました。それを「予祝（よしゆく）」と言います。

先に喜び、先に感謝し、先に祝うことで、その現実を引き寄せるとというのが、日本人が昔からやってきた夢の叶え方です。

年始や小正月に餅花を作ったり、どんど焼きをしたりして祝うのは、無病息災や豊かな実りを願う風習です。夏の盆踊りなども、秋の豊かな実りを先に祝う踊りであり、まさに「予祝」です。

スポーツ選手もイメージトレーニングと称して、「予祝」の考え方を取り入れています。

かの長嶋茂雄さんは、有名な天覧試合のサヨナラホームランを前夜から思い描いていたと言います。

1959年（昭和34年）天皇・皇后陛下を迎えて行われた天覧試合。読売ジャイアンツ（巨人）対大阪タイガース（阪神）。9回裏で4対4の同点。警備の都合上、両陛下が野球観戦できる時間は21時15分まで。延長戦に入った場合、両陛下は途中退場という状況でした。

その9回裏。大事な場面に、先頭バッターとして回ってきたのが長嶋茂雄。21時12分、天皇陛下が退場されるまであと3分。長嶋は、サヨナラホームランをかつ飛ばしました。プロ野球が、国民的スポーツとなった瞬間でした。

長嶋茂雄さんは、「前の晩、『長嶋サヨナラ本塁打』『天覧試合でサヨナラ打』『歴史に残る一発』と大きく書き、先に喜び、先にイメージトレーニングしていた」と後に語っています。



この「予祝」の習わしは、単なる願望やスローガンではありません。夢を実現させるための、努力・汗する過程も併せて教えています。実りや息災を願うには、そのための備え（努力）が必要なのです。

新年を迎えました。どの子もきっと、「今年はこちらになりたい」「〇〇ができるようになりたい」と、夢をもっていると思います。力が付いた自分をイメージして、自分の夢を叶えるために、今年「何を」「どのように頑張るのか」をしっかりと決めて努力し、実りある一年にして欲しいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、明けましておめでとうございます。今年も皆様とともに、よい年になるよう力を合わせて、トラ（寅）イしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

